

情報活用能力育成のための指導事例【小学校 第2学年（複式） 算数】

単元・題材名	ひき算のひっ算	指導時間（本時）	7/12
本時の目標	教科・科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>（3位数）－（2位数）で、被減数の十の位が空位のときの筆算の仕方を考えることができる。</li> </ul>	
	情報教育（3観点8要素）	<p>[実践] ■課題や目的に応じた情報手段の適切な活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りの情報機器の操作方法を知る。（モA11-1-010）</li> </ul> <p>■受け手の状況などを踏まえた発信・伝達</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えをはっきりさせて表現する。（モA41-1）</li> <li>みんなの前でしっかりと話すことができる。（モA42-1）</li> </ul>	
活用する主なICT機器等	<p>■コンピュータ ■実物投影机（教材提示装置、書画カメラ） ■デジタルテレビ</p> <p>■ソフトウェア（教育用ソフトウェア）</p>		
本時の概要	<p>引き算の学習において、児童が描いたタイル図を実物投影机で拡大提示し、自分の考えを発表させることで、聞き手を意識して発表する態度や聞く態度を育成する。</p>		
本時の流れ	主な学習活動		ICT活用の工夫及び留意点等 (○：教員の活用，◎：児童生徒の活用)
	導入	<p>1 前時の復習をする。</p> <p>2 学習のめあてをつかみ、解決の見通しを立てる。</p> <p>ひく数の十の位が0のときの計算はどのようにすればよいのだろう。</p>	<p>○ 引き算のくり下がりについてアニメーションがあるパソコンソフトを活用する。</p> <p>※ 短時間で効率的に復習させる。</p> <p>○ 本時の学習課題を、デジタルテレビに拡大提示する。</p> <p>※ 短時間で視覚に訴え、課題意識をもたせる。</p>
	展開	<p>3 自分の方法で解決する。</p> <p>4 自分の考えを発表し、話し合う。</p>	<p>◎ 各自が描いたタイル図を実物投影机でデジタルテレビに拡大投影し、自分の考えを発表させる。</p> <p>※ 各自の考えを引き出し、共有させる。</p>
	終末	<p>5 練習問題をする。</p> <p>6 本時の学習について振り返り他の学年と交流する。</p>	<p>◎ パソコンソフトを活用させ、引き算の筆算の練習問題に取り組ませる。</p> <p>※ 個別学習により、学習内容の習熟を図る。</p>
使用した教材・資料（コンテンツ）	<p>○名称・出典・内容など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教師用指導書提示型デジタル教科書2年算数（DVD）</li> <li>みんなと学ぶ小学校算数 スクールプレゼンターEX</li> </ul> <p>&lt;内容&gt;教科書の学習問題がデジタルテレビに拡大投影される。</p>		
ICT活用の指導上のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校の低学年では、ICTに慣れ親しませるところから始める。具体的には、各教科等の学習活動の中で、コンピュータやソフトの起動や操作を自分でできるようにさせることを通じて、段階的に指導していく。</li> </ul>		
備考	<p>○ICT活用に関して日頃から気を付けていることなど</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>複式学習の間接指導で、時間の隙間をなくすために、パソコンソフトを活用している。</li> </ul>		

【本時の目標における情報教育（3観点8要素）の略記について】

「情報活用の実践力」→[実践]，「情報の科学的な理解」→[理解]，「情報社会に参画する態度」→[態度]  
「情報活用能力育成モデルカリキュラム」の対応番号→モ番号